



導入事例

実際にご利用いただいているお客様の声やソリューション事例をご紹介します。

performance 01 株式会社mediba



TIS株式会社
アドバンスソリューション事業部
アドバンスソリューション事業統括部
クラウドテレフォニー推進室 室長
岡部 耕一郎 様



株式会社mediba システム部
システムソリューショングループ
グループリーダー
松本 竜彦 様

3000万ユーザーの巨大ポータルサイト 「au one」の内製化を支える大規模CMSとは

「au one」は、主にauの携帯電話ユーザーをターゲットにしたKDDI公式のポータルサイトです。ニュースや天気などの情報、地図や辞書といった便利ツール、ショッピングやオークションなど幅広いコンテンツを提供しています。制作の内製化を目指してau oneの運営体制を見直し、その過程でCMSの変更も実施。「PUBLIS Enterprise」を採用し、2010年3月から全面的に移行しました。CMS変更やシステム全体の見直しは、高いトラフィックに耐えられるなど、主にWebサイトの情報を見ていただくという参照系に主眼を置いた強化でした。今後は、ケータイ分野での成長が著しいスマートフォン市場への対応も進めていきます。幸い、SITE PUBLISシリーズは3キャリアやスマートフォンへの対応も積極的に行われていますので、それをau oneにも生かしていきたいです。



○ 導入の背景

au oneでは当初からCMSを導入していましたが、2年間運営してきたなかで、コンテンツの更新や追加にコストがかかり過ぎるという問題がありました。コンテンツやデザイン自体は弊社で制作していましたが、更新作業（コーディング）はCMSの保守業者に発注していたのです。こうした問題を解決するために考えたのが内製化を進めることでした。

○ 導入の経緯

コスト削減に加えて、選定にあたって一番重視したのは、内製化を前提としたときにどこまで我々が手を入れられるかということでした。我々としては、動的なコンテンツを変更する際に、裏で動いているロジックに対しても簡単に手を入れたかったのです。その点、PUBLIS Enterpriseは、カスタマイズの柔軟性も持ちつつ、WYSIWYG機能も実現されていて使いやすく、バランスが良かったのです。

○ 導入後

CMSの乗り換えによる成果は、サイト更新の内製化による外注費の削減、データベースやサーバー管理などのシステムコスト削減によって、ランニングコストを50%以上削減という数値として表れました。内製化は開発費の削減にもつながっています。今後の展望としては、運営の効率化をさらに推し進めながら、ユーザーとのコミュニケーション機能を強化していくことを考えています。

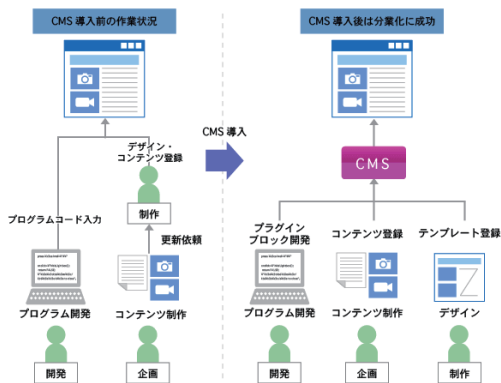
performance 02 カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社



IT支援本部
IT事業支援ユニット ネットチーム リーダー
畝岡 健(うねおか けん) 様

1500万会員の総合エンタメサイト「TSUTAYA online」が
CMS導入で重視したのはモバイル対応と外部アプリ連携

「TSUTAYA online」は、音楽、映画、ゲーム、本を中心とした情報発信を行うポータルサイトです。TSUTAYA onlineをきっかけに、TSUTAYA店舗での購入またはレンタル、ECサイトの「TSUTAYA オンラインショッピング」や「TSUTAYA DISCAS」につなげるという「送客」がサイトの主な役割となります。CMSの導入前は、ちょっとしたテキストの修正も制作チームが担当していましたが、それが不要になったことで、それぞれが本来の役割に集中できるようになりました。これは開発チームも同様で、フロントのことを気にせず開発に集中できるようになり、分業体制を確立することができました。今後は、PCやモバイルだけでなく、スマートフォンやそれ以外のデバイスから利用されることを前提に、Webサイトの展開を考えていくつもりです。弊社は音楽や映画といったエンターテインメント商品を扱っていますが、Webサイトを始め、お客様の環境に合わせてサービスを対応させていくつもりです。



○ 導入の背景

1999年にサイトを立ち上げてから、微改修を加えながら運営してきました。しかし、基本的なアーキテクチャーは8年間変わらないままでしたから、古臭い感じは否めませんでした。2005年ごろにWeb 2.0ブームがあって、世の中におけるWebサイトの作りや機能が大きく変わってきたこともあり、2007年にリニューアルの話が持ち上がりました。目的は、デザインの変更とコンテンツの幅を広げて数を増やすことでした。

○ 導入の経緯

CMSの選定条件には「IT担当者ではない現場の人間でも使えること」に加えて、モバイルへの継続的な対応、プレゼンテーション層とアプリケーション層を分離できるアーキテクチャーであることがあげられました。随時更新されるモバイル端末への対応、わかり易さに定評のあるページ制作機能に加えて、ブロック単位でサイトのパーツを管理し、パーツごとにAPI連携が可能な「プラグインブロック」の機能も他のシステムとの連携という要望にマッチしたことから、「PUBLIS Enterprise」を導入することとなりました。

○ 導入後

更新頻度の向上や各担当者の役割分担など、期待していたCMS導入の成果が得られています。他にも、SITE PUBLISのプラグインブロック機能を使うことで、外部からランキング情報を取り込み、動的に表示するといったコンテンツを簡単に開発できるようになりました。また、今後の展開としてマルチデバイスへの対応などを検討しています。

取材・文: 仲里 淳 この記事は株式会社インプレスビジネスメディア「Web担当者Forum」2011年8月25日に掲載されたものを基に一部修正、抜粋の上掲載しています。

お問い合わせは

MICS 株式会社ミックスネットワーク

東京本社 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル14F
TEL: 03-6261-4539 FAX: 03-6261-4520

福岡本社 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-26 安川産業ビル8F
TEL: 092-431-7139 FAX: 092-431-7138

関西支社 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町8-12 第3マイダビル605号
TEL: 06-4860-6739 FAX: 06-4860-6738

お問い合わせダイヤル	☎ 03-6261-4539 [東京本社]
会社情報	🌐 http://www.sitepublis.net/micsnet/
PUBLIS製品サイト	🌐 http://www.sitepublis.net/
お問い合わせメール	✉ info@micsnet.co.jp

